

横浜市小学校社会科研究会

3 学年部会

## 研修会記録

第 4 号

令和4年 10月5日

横浜市小学校教育研究会

会長 徳江 武司

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 岡村 伸一郎

【提案日時】

9月 7日 (水)

提案 能登 清仁 先生 (阿久和小)

【会 場】

横浜市立 平沼小学校

司会 小森 竜也 先生 (汐見台小)

記録 益満 順也 先生 (三ツ沢小)

### 1 提案内容 単元名

単元名「横浜市のうつりかわり～横浜市と阿久和のまちの変化～」

### 2 提案者より

横浜市のうつりかわりの学習の中で、阿久和団地の約50年の歴史について中心教材として取り上げる。阿久和小学校は、2年後に統廃合が決まっている。阿久和小学校の児童にとって横浜市全体をつかみづらい実態がある。そのため、身近なものがあったほうがよいという理由で阿久和団地を教材に選定した。

この単元では、横浜市全体を見ていく必要があるため団地を取り上げることとのバランスを考えなければいけない。学校の統廃合など自分の身のまわりでもおこっていることとつなげながら、年表や団地の人からの言葉を資料として準備する予定である。

学級の児童数が10名で話し合いができるかどうか不安。8年9年しか生きてない子にどうつなげるのか。子どもが本気で考えたいと思う疑問にするにはどうすればよいか悩んでいる。

### ○単元計画について

導入で、団地の航空写真（団地ができる前、できた後、現在の3枚）を見せたい。道路・人口・交通・公共施設・土地利用→5つの視点で学んでいきたい。

新しい団地の建設も決まっている中での統廃合で、「人が増えるかもしれないのに学校はなくなってもいいの？」と考えられるようにしたい。単元の終末には統廃合する学校や阿久和のまちの今後に希望をもてるようにまとめていきたい。

団地に住んでいる児童は、10名中9名。 家族の方も昔から住んでいる。

### 参加の先生方から

- ・導入で見せる写真は大切。使う写真の年代はいつがよいのか。写真はどのように見せるのか。より具体的な物、駅の周りなどシンプルな写真がよい。
- ・団地ができる前の阿久和のまちの様子を見て、「その当時の横浜の様子はどうなん

だろう」と考えて横浜市のことを見ていくとよい。ストーリーを作っていくとあげることが大切。

- まち→市のほうがわかりやすい。自分のところから広げていくとスッキリする。
- 子どもが深く思考する学習問題になっていくとよい。

<講師の先生より> 下野庭小学校校長 校長 黒木 英晴先生

- みんな（参会者）で協力して阿久和のことを調べていきましょう。
- 新しいマンションもできているのに学校が2年後になくなるのは切ない。そういう状況で、子どもたちは未来が見えているのか。
- グラフが読み取れるように算数の単元を入れ替える必要がある。
- 阿久和のまちからも横浜が見えてくる。電車が通り、横浜市全体につながっていく様子がとらえられると良い。
- 魅力のあるまちとは？横浜にとっても大きな課題である。

文責 北沢 宏（間門小学校）